

コミュニケーションニュース Communication News

近畿大学校友会 東京支部会報

第 13-1 号

発 行 日

平成 25 年 8 月 10 日

支部長／宮川正博 編集・文責／広報委員会 連絡先／〒132-0021 東京都江戸川区中央 2-31-10-404 (株) 正栄設備 TEL.03(3674)2472 FAX.03(3674)2486

ホームページアドレス <http://www.kindai-kouyukai-tokyo.com>

近畿大学校友会東京支部 30 周年記念総会のご案内

このたび近畿大学校友会東京支部が支部発足 30 周年を迎えることになりました。この間、東京都内に在住または勤務されている校友、他の地域支部や職域支部の校友とも交流を深める取り組みを進めてきており、今後も校友の親睦を図るとともに、母校近畿大学の発展に寄与する活動を続けて行きます。

つきましては、下記のとおり、近畿大学校友会東京支部 30 周年記念総会を下記のとおり開催することになりましたので、校友の皆様方お誘い合わせのうえ、ご参加をいただきますようご案内申しあげます。

- 日 時** 平成 25 年 9 月 21 日（土）【受付】午後 5 時より
【総会】午後 5 時 30 分から 6 時 30 分 【パーティ】午後 7 時から 9 時
- 場 所** コートヤード・マリオット 銀座東武ホテル「3 階 龍田」
東京都中央区銀座 6-14-10 T E L / 03-3546-0111 (代)
- 会 費** 10,000 円
- 連絡先** 近畿大学校友会東京支部 事務局
TEL 03-3674-2472
FAX 03-3674-2486 幹事長 松元潤一まで



近畿大学校友会東京支部 30 周年を迎えて



近畿大学校友会東京支部
支部長 宮川 正博

校友の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍の事とお喜び申し上げます。

さてこの度、校友会東京支部元支部長の中川正經先輩（昭和 28 年数理卒）が昭和 58 年に関東 1 都 6 県において校友会東京支部として名簿を整理発行され、その後東京支部活動の充実を図り活動をされてまいりました。以後 八木十洋造先輩（昭和 28 年機械卒）

前 進先輩（昭和 31 商卒）、松永禎之先輩（昭和 37 年機械卒）と支部長の交代があり、30 年の歳月が経過し、今回記念総会及び懇親会開催の運びとなりました。

昨年 12 月に神奈川県支部、3 月に埼玉県支部、7 月に千葉県支部が新たに設立され、又 10 月には茨城県支部が新設される予定です。東京支部としての選択範囲がますます狭まり、大変苦慮しております。東京支部としては一層の充実を図りたく、諸先輩の方々に多くご参加していただき、親睦を深めていきたいと願っております。諸先輩諸兄姉の一層のご協力をお願い申し上げます。

校友会東京支部
支部長 宮川 正博（昭和 46 年工学部卒）

高砂部屋チャンコに参加して



昭和 45 年商卒 前 和久

6 月 6 日（木曜日）18：00 から高砂部屋チャンコに参加しました。今年は、支部長はじめ 17 名（内女性 4 名）が参加しました。

相撲学校に通う有望新人 2 名いますが、なんといっても親方に後輩を早く発掘してもらい関取の誕生をお願いしたいものです。

今年はおかみさんが参加されたみなさんに一人ひとり個別にお話をされ、親交を深められました。わたくしもゆっくりお話しできました。感動です。また、鈴々舎八ヶ馬君が参加しましたが、おかみさんははからいで一席落語をされ、みなさん楽しくひと時を過ごされました。最後に相撲甚句で締めました。

一木会ゴルフ夏合宿

昭和 52 年法学卒 中谷 隆男

7月23、24日と例年通り平尾先輩（39年土木卒）の千葉夷隅GC、と米原GCで初参加の千葉県支部、中嶋 弘副支部長（50年電気卒）をはじめ、15年ぶりに参加の八木利明（47年建築卒）、ゲスト4名、総勢13名で熱戦を繰り広げました。夜は米原GCのコテージに移動し、酒盛りとなり、学生時代の懐かしい思い出話に盛り上がり、後輩から先輩へと杯が空くことなく注がれ、酒量オーバーとなり、2日目のスコア一覧は散々でした。又来年の夏合宿を約束し、散会となりました。

順位	競技者名	GROSS	HDCP	NET
優勝	渡辺 純生	105	30.0	75.0
準優勝	宮川 厚子	97	20.4	76.6
3位	宮川 正博	108	30.0	78.0
3位	平尾 秀博	108	30.0	78.0
5位	富樫 務	97	18.0	79.0
6位	渡辺 よし子	100	20.4	79.6
7位	上手 峰幸	99	19.2	79.8
8位	松本 賢一	103	22.8	80.2
9位	佐久間 勝	97	14.4	82.6
10位	富田 久夫	106	20.4	85.6
11位	中嶋 弘	111	25.2	85.8
12位	八木 利明	120	33.6	86.4
13位	中谷 隆男	124	36.0	88.0

場所：米原ゴルフ倶楽部 競技方法：ペリア12 打数制限：制限なし



全日本大学野球選手権大会観戦記

平18年通短法卒 佐久間 勝



先陣を切り工学部が、東京情報大学（千葉）と対戦。4回に先制を許したものの、情報大の失策で逆転。その後も得点を重ね4対8で快勝しました。

応援席に目を向けると、ブラスバンド同好会10名、運動部員、関係者を含めて30人。東京校友会からは、OBの宮川支部長、近森氏と、少數ながら、熱烈な応援が勝利を呼んだ！

翌日、6月12日は母校近大本校が、東北福祉大学とドームで朝9時から、大勢の先輩諸兄姉が応援グッズ・旗などを打ち振り大声援のなか試合が始まり、先攻の近大は、1、2回に満塁という好機をむかえたが、あと、1本が出ず得点にいたらなかった。

関西では、自責点1という実績をひっさげての、全国初見参のエース小出。もともと、



第62回全日本大学野球選手権が、6月21日から神宮球場、東京ドーム球場で開幕。母校近大と工学部（東広島）がダブル出場を果たした。

ややコントロールに難があったが、これを克服すべき、投球時に、若干、「ひじ」を下げることにより、球筋が安定したが、ここ一番という時弱いところ、不安な個所が出

るもので、コントロールが定まらず、四球から適時打につながり、2点を先制されてしまった。近大のラッキーセブン1、3塁と走者をだし、一塁走者が挟まれている間に、三塁走者がホームを陥れ、一点差としたが、東北の熱い抑え投手陣に押し切られ敗北した。

四年ぶりの28度目の出場母校強者近大、優勝を目指したが“勝負は勝つ事もあれば”また“負ける事もある”。

静岡支部の遠藤先輩をはじめ、赤坂先輩、村本先輩および、上手先輩方は「試合に負けてくやしいが、母校近大の爽やかで、やわらかいブルーのユニホームがドームで輝き、名門らしく溌剌とした戦いぶりであった」と来季に期待することの声が飛んだ。また、大勢の関東・東京校友の有志が球場に足を運び「若き日を」を、もう一度！野球の応援での「アンチエーディングを！」。なお、同日午後2回戦と駒を進めた、工学部が、前回準優勝の亞大（東都）と終盤までお互いに譲らず「投手戦」、亞大が勝負どころで得点。

工学部エース森原が連投の疲れも見せず、バランスのとれた、見事な投球であった。

二年ぶりの26度目の出場は“伊達”ではなく近大勢による決勝戦も夢ではない！「フレー・フレー工学部」、「フレー・フレー近大」。

スカイツリー見学ツアー

東京支部では、毎月第一木曜日に校友が集まり、講師を招聘または校友が講師となって勉強会を開いたり、イベントを企画、または総会等行事の計画など様々な活動をしています、因みに「一本会」と呼んでいます。

その「一本会」の都内日帰り見学ツアーの第三回目の企画として、スカイツリー見学を企画し



ました。五月二十一日はとバスで新装なった東京駅丸の内南口を夕刻出発し、隅田川のクルージング、東武ホテルで夕食バイキング、その後スカイツリー展望台へ登りました、その日は曇っていましたが一千万都市の夜景が一望に展望でき、その美しさは言葉では言い表せない程のものでした、参加人数は支部長以下八人、費用は8、



昭和51年水産卒 志賀 良典

900円でした。

ところで、スカイツリーの高さは、634メートルです周知の通りあの剣豪宮本武蔵に因んだものですが、武蔵とは彼の幼名「たけぞう」のこと、「無三四」が正しいとか、つまり日本で二番目に高いということ、では一番は誰かと言うと彼の父であり十手の名手であった「新免無二斎」だそうです。となるともうスカイツリーⅡが計画されているのでしょうか、裏情報によると高さは1,000メートルとのこと。そうなると、関東の一都六県がまるまる見渡せるということになります、東京支部もそこをカバーしています、ホームページには「ちゃんこ会」など東京支部の魅力ある行事やイベントが記載されています、同じ校友です他府県の方も参加して頂ければ企画立案するメンバーの幸いだと思います。ではこれにて報告を終えます。

2012年夏モンゴル旅行日記

昭和8年理工学部原子炉工学科卒 富田 久夫

2012年夏、モンゴル人の友人とウランバートルに9日間行つてきました。

ウランバートルへのフライト時間は、約4.5時間、時差は、1時間です。成田空港を15時前に離陸して、ウランバートルに着陸したのは、20時前(現地時間)でした。

成田空港では、海外旅行で初めて荷物の重量オーバーの料金を支払いしました。2Lのお水を6本持つていったからです。会社勤めの時のドイツに一週間出張した時も同様に2Lのお水を6本持つていきましたが、重量オーバーの超過料金はありませんでした。

ウランバートル空港では、友人の親戚が多数迎えに来ていました。両親や兄弟とその家族、そして両親の親族とその家族、約20人ぐらいでした。またその夜は、同じホテルに全員が泊まり、両親の一室で、食べるものと飲み物を持込み、ろうそくの明かりだけの歓迎パーティーでした。その日の夕方からそのホテル一帯が、停電でした。親族の紹介があり、とても20人を覚えられるものではありませんでしたが、とにかく食事にしてもお酒にしてもまずは、年長者を重んじ、年長者からお酒を注ぎ、年長者が先に食事をすることでした。日本からは、日本酒「久保田」の千寿を成田空港で買い、友人の両親にプレゼントしました。私も年長者から日本酒を注ぐことにしました。友人の両親からは、ウォッカをいただきました。それぞれのアルコール度数は、日本酒が15度、ウォッカが38度です。ウォッカは、

小さいグラスに入った量を一気に飲まなくてはならず、大変でしたが、日本酒は、普通に飲めました。

翌日は、10数名でウランバートル郊外のテレルジキャンプ場に移動でした。郊外といつても車で3時間ほどの移動です。ここで、ウランバートルの道路事情をお知らせします。道路は、市内でも幹線道路でもアスファルト舗装ではありますが、かなり凸凹になっている部分がありました。2012年夏前の豪雨が原因で、凸凹になり、ほとんど補修工事をしていません。運転手は、その道路の穴を避けて走行し、少し大変でした。補修工事は、翌年のようです。また、ウランバートル市内は、時間帯により激しい渋滞があり、なかなか時間が読めない状況です。車は、日本車、韓国車、ロシア車などで、日本車は、圧倒的にトヨタ車が多く見られます。トヨタの進出が早かったようです。

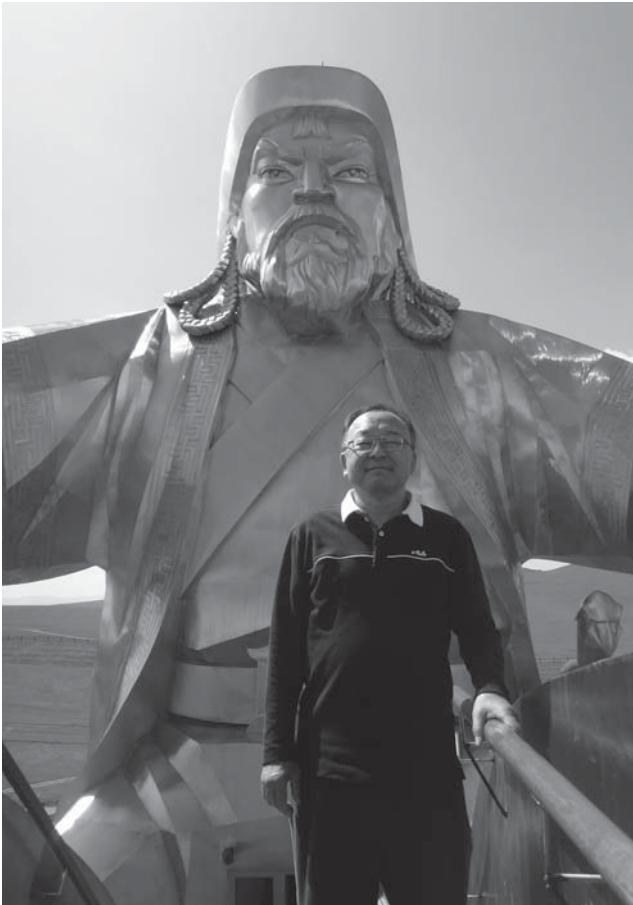
キャンプ場は、友人の親戚の叔父さんの知り合いの方が社長で、今回そのキャンプ場にお世話になることになり、その叔父さんは、キャンプ場の社長に山羊、豚、各10頭をお礼として、プレゼントした話を聞きました。その叔父さんは、田舎で遊牧民として、家畜を育て生計を立てていますが、



お礼として家畜をプレゼントする事実には、とてもびっくりしました。

キャンプ場では、モンゴルで有名な「ゲル(家屋)」での三日間の生活でした。ゲルとは、主にモンゴル高原に住む遊牧民が使用している、伝統的な移動式住居のことで、内部は、直径6.8mあり、その中にベッドが置いてあります。夏ではありましたが、朝や夜は寒く、薪ストーブで暖を取っていました。

朝食は、全員がそろって、野菜(キュウリ)とソーセージとパンとクッキー、そして牛乳茶でした。牛乳茶は、みな好んでたくさん飲みます。トイレは、キャンプ場の外人用の鍵のついたトイレを利用しました。もちろん水洗ではありませんでした。朝起きてからの洗顔や歯磨きは、キャンプ場の中にある小川の水を使いました。(次頁に続く)



キャンプ場での昼食は、豪華料理でした。客人用の歓迎料理だそうです。山羊一頭を使います。山羊の肉を小さく切って、さらに野菜と黒い石とともに大きな缶の中に入れ、その大きな缶を薪の火で熱くさせ、出来上がるまで待ちました。お肉が食べられるまでその間はふたを取りません。出来上がった山羊の肉をかぶりつきましたが、柔らかく、臭みもなく、とてもおいしくいただきました。このときは、客人である私が最初に食べましたが、そのあとはいつも通り年長者からの順番でした。

管の中の黒い石は、とても熱いもので、素手の左右の手の中で、ある程度冷めるまで右や左に動かしますが、そのあとは、黒い石の上に素足を乗せました。つまり黒い石に伝わった肉のエネルギーを感じて、食べることに感謝しなさいというものでした。そこにいたすべての人が、同様なことを行いました。

食事の後は、乗馬でした。一人では馬にこちらの意図を伝えることはできませんでしたが、高校生の指導の下、なんとかキャンプ場の中を乗り回すことができました。でも手綱は、その高校生が持ち、自分の馬と私の馬をコントロールするものでした。

ゲルの生活と乗馬が今回の旅行の目的の一つでしたが、ゲルでもぐっすり寝ることができ、さらに乗馬の高いところの景色は、初体験でなんとも感触の良いものでした。

キャンプ場といえば、夜のキャンプファイ

行の目的でもありましたが、とにかく感動の一言でした。

キャンプ場からの帰りは、アクシデントが発生し、ワゴン車が故障して、もう一台の乗用車がけん引することになり、ゆっくりのんびりの旅になりました。故障車の方は、暖房も入らず、移動は、日中でしたが、寒さを我慢していました。

ウランバートル市内では、友人の友達の日本式マンションにお世話になりました。現在ウランバートルでは、今までのソビエト式アパートから高級マンションが建築され、不動産投資ブームが起きていて、友達の日本式マンションは、スルガコーポレーションのセキュリティーがしっかりしている「フォーシーズンズ・ガーデンズ」でした。

ウランバートルの夜は、ナイトクラブで踊りましたが、お客様は、かなり静かでしたが、それが普通であったことは、ちょっと驚きました。でも米国系のナイトクラブでは、声を上げるお客様もいてそれなりに盛り上っていました。

ウランバートル市内観光は、博物館、建国の英雄であるスフバートル広場、政府宮殿、モンゴル民族ショー、相撲の元横綱朝青龍のサーカス広場、市内のデパートや市場などを見ましたが、どこも日本では全く経験のできないところばかりでした。また、ウランバートルの人口は、モンゴル最大で、120万人です。

また、ロシア料理を食べたいという要望に

ヤーです。こちらもキャンプ場の社長のプレゼントとして、セッティングされました。バチバチと火花が上がり、みんなでキャーキャー言いながら大盛り上がりました。夜といえば星空ですね。ウランバートルの場所は、北緯約 48 度、東經約 107 度で、北側は、ロシア、南側は、中国です。日本の最北端の北海道稚内市宗谷岬が北緯 45 度で、サハリン（旧樺太）の旧南樺太と旧北樺太の境界線が北緯 50 度なので、ウランバートルが、どの程度北に存在するかわかって頂けたと思います。標高は、1,300mで、その星空ですが、夜真上を見上げるとそぐそばに北斗七星が確認でき、眩い（まばゆい）ほどの星、そして数多くの星でした。この夜空を見るのも今回の旅

は、お昼にボルシチやピロシキをたべ、マッサージしたいという要望には、一人で受けることになり、英語が少し通じたので何とか 1 時間ほどのモンゴル式マッサージを堪能し、肩こりが強力なマッサージでかなり軽くなり、プールで泳ぎたいという要望には、小さな室内プールとサウナとカラオケができる部屋を予約してもらい、友人や両親などの数名と一緒にこちらも 2 時間ほど時間を過ごし、大変リラックスしました。お酒は、ほぼ毎日ウォッカを飲んでいましたが、さすがに最終日の前日は、お肉の食べすぎとウォッカの飲みすぎで、昼食と夕食は、バスしました。

最終日の前日には、郊外にあるチンギスハーンの巨像に行きました。写真にあるようにとにかくとても大きい、よくこんな大きなものを作ったものです。ゆくゆくは、この周りにゲルをたくさん作り、観光施設にするようです。

最終日の前日には、モンゴル文化教育大学が経営しているキャンプ場に行き、観光客としての日本人を対象としているため、トイレは水洗でした。そのキャンプ場で働いている学生は、みな日本語教育を受けており、十分対応していました。そのキャンプ場には、友人の一番下の妹がいて、当日が誕生日もあり、両親も一緒に行き、お昼に誕生パーティーを盛大にやりました。

今回のモンゴル旅行で知り得たことは、モンゴル人の年長者を大事にすること、モンゴル人は、とにかくお肉が大好きなこと、モンゴル人の女性は、プロポーションがとても良いこと、モンゴル人には、禿げがないこと、モンゴル人の男性は、顔のひげが伸びないこと、モンゴル人の兄弟姉妹では、若いほど体格がよいことなど、知らないことばかりでしたが、今回の旅行では、歓待していただき、モンゴル人の親族のきずなを感じることができ、また、こちらの要望に応えていただき、関係者には感謝の気持ちばかりです。

はじめての国への旅行では、いろいろと事前に調べてから行きますが、今回は、ほとんどぶつけ本番ばかりで、感動、感激が大きかったと思っています。

日本の相撲世界の中のモンゴル人は、横綱には、白鵬、日馬富士、元横綱には、朝青龍ほか元力士を含め 26 人いますが、日本・モンゴル友好条約は、2012 年に 40 周年を迎えました。モンゴルは、遠い国ではありますが、40 年の友好関係であることを皆様に知っていただき、相撲ばかりではなくモンゴルを好きになっていただきたいと思います。

2013 年、ぜひモンゴル旅行をお勧めします。